

山口県・長門湯本温泉観光まちづくり事業

2020年4月『夜間景観形成』照明デザインのポイント



長門湯本観光まちづくり事業における照明計画は、事業の当初から掲げてきた「良好な温泉街形成に必要な6つの要素」のうち、特に「そぞろ歩き(回遊性)」「絵になる場所」「休む・佇む空間」の創出を念頭に計画初年度から社会実験を重ね、具体的な効果検証を通じて周到に計画され実現しました。

その特徴は大きく以下です。

- ① 日本の温泉地では初となる、エリア全域(約18ha)にわたる照明自動制御による、美的価値形成と省エネルギー。(蛍の出る季節には自動制御で消灯、時間管理による深夜の大幅調光 等)
- ② 音信川の河川環境を活かした、川床・岩場・飛び石・橋梁・河川域並木などをビューの連続として魅せる照明計画
- ③ ランドスケープデザインの特徴を活かす間接照明を主とし、鉛直面の明るさ感を重視した照明手法
- ④ 温泉地の自然景観となる樹木へのライトアップを大きく取り入れ、絵になる場所を創出
- ⑤ 広範囲路面は、上空や周辺への漏れ光が無いスポットライト型ハイポール照明の採用
- ⑥ 一ノ瀬飛び石・せせらぎ橋等端部エリアへのカラー演出による、回遊性の獲得
- ⑦ 3000ケルビン以下の低色温度を基本とした、落ち着いた温泉地夜景の創出
- ⑧ 長門湯本温泉オリジナルの、大型行灯や親柱照明の採用
- ⑨ 地域住民及び事業者による、軒先への「オリジナル湯本提灯」の掲揚
- ⑩ 公共空間活用を前提としたイベント用電源及びコンセント内蔵式ハイポール照明の採用

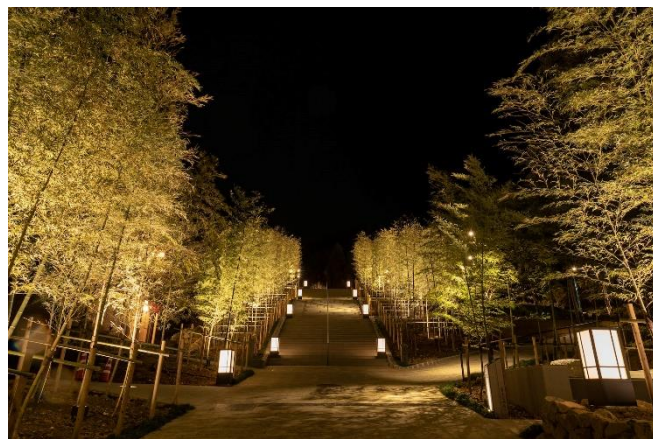
◆各種データ

- ・照明器具設置数 全域で約700灯(すべてLED光源、一部ソーラー照明)
- ・制御システムプラットフォーム DALI 及び DMX制御
- ・整備対象面積 約18 ha
- ・時間コントロールの考え方
日没～21時、21時～23時、常夜灯で区分(例えば河川沿い低ポール灯は深夜は10%の電力にて点灯)
- ・基準色温度:2700K(ケルビン)
- ・オリジナル行灯での萩焼陶板製作:坂倉善右衛門氏
- ・オリジナル照明器具デザイン:長町志穂(株式会社LEM空間工房)

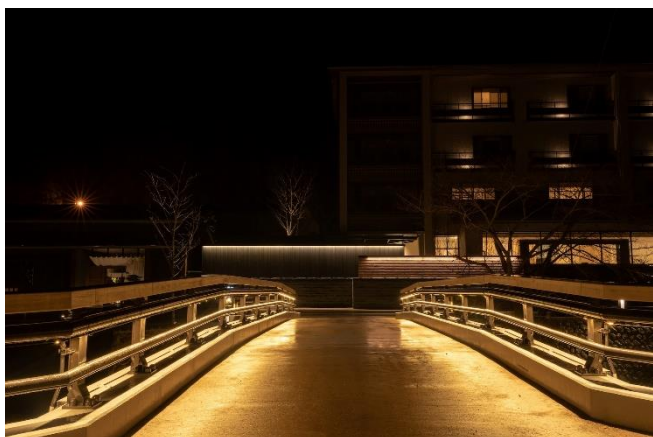
照明関連詳細 問い合わせ先
株式会社LEM空間工房 熊取谷
lemdesign1@gmail.com



駐車場から竹林の階段を望む



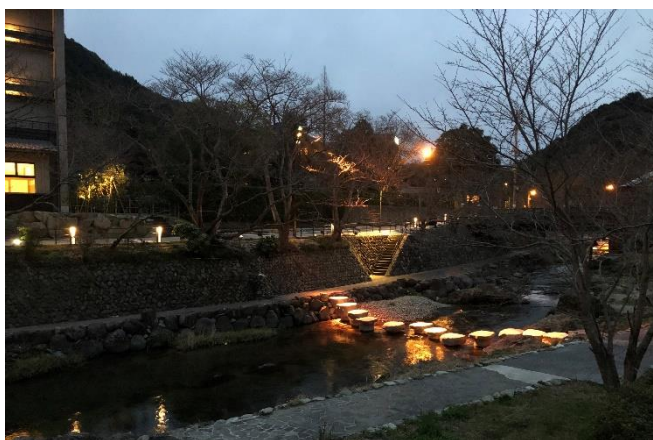
雁木広場より竹林の階段を望む



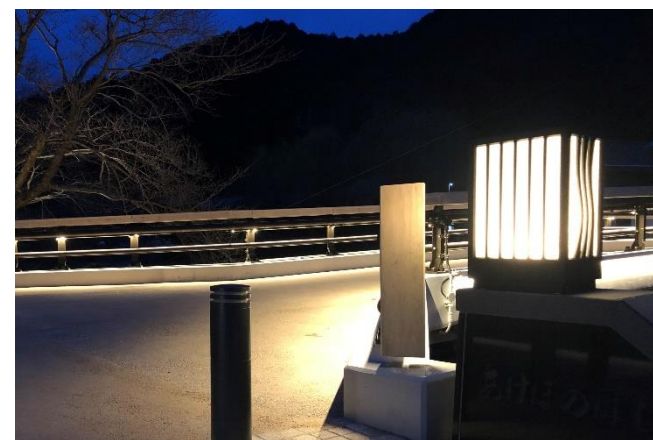
曙橋



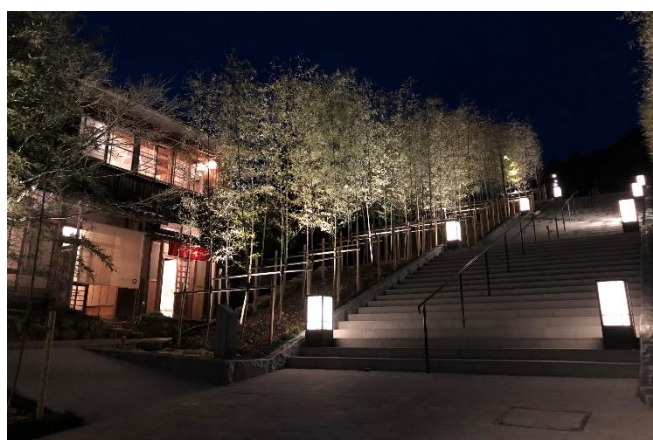
モミジの階段



一ノ瀬飛び石



オリジナル親柱



竹林の階段とおとずれ堂



駐車場